

令和 2 年度 学校評価の集約と課題について

訪問教育部 施設関係

(1) 回収率 89% (昨年度 93%) (大倉山は 26/31 部、緑が丘は 16/16 部の回収率)
 $42/47 \times 100 = 89.36\%$

(2) 評定について

全体の平均点 3.5P (昨年度 3.7P)

(3) 今年度の評価

① 結果

1 本校からの情報や連絡は、十分に伝わっていると感じますか。	3.4
※ コロナ禍のため十分な連絡ができなかったというのが大方の意見でした。	
2 学習を進めるに当たって、十分な説明や話し合いができていますか。	3.4
3 連絡協議会や担当者会議・ケース会議などで、十分に意見が交換されていますか。	3.3
4 小中学部と高等部の校舎が別になりましたが、施設との十分な連絡調整ができていますか。	3.5
5 児童生徒一人一人を大切にしている授業を行っていると思いますか。	3.8

② 自由記述から

- ・学習活動場面では、利用者（児童生徒達）が毎回登校を楽しみにしている様子が見られること、普段、見られない行動や技能等を見せていただいていること、移動する力が落ちている利用者が自ら移動する姿を見て驚いていたこと等、授業によって利用者が生き生きとしている様子に対し評価を頂いた。
- ・口頭や連絡ノートでの詳しい引き継ぎにより、児童生徒の学習の様子や成長を知ることができて良かったという評価を頂いた。
- ・コロナ禍の状況下で授業に制限がかかる中で、授業の調整が大変だったと思うが、利用者にとっては大切な時間として連絡を密にしながら今後も協力していきたいという意見を頂いた。

● 結果より（令和 2 年度 学校反省）

- ・施設と学校とが情報を共有し連絡連携を密にしながら、児童生徒にとって大切な授業を保障していきます。
- ・コロナ禍のため例年行われている諸会議ができなかったため、今後はコロナ禍が収束する状況を見ながらも、できるかぎり連絡を取っていきます。